

10代・20代男性は、ワクチン未接種に比べ、 ワクチン接種後の方が、心筋炎・心膜炎の頻度が高い！

厚生労働省は、「《新型コロナ感染症による心筋炎・心膜炎の頻度》に比べ、《ワクチン接種後の心筋炎・心膜炎の頻度》の方が低い」と発表していますが、正しく計算すると、逆の結果になります。

以下に、心筋炎・心膜炎の頻度の比較と、それを導き出した計算方法(裏面)を示します。

※厚生労働省のリーフレット「新型コロナワクチン接種後の心筋炎・心膜炎について」2021年10月15日
<https://www.mhlw.go.jp/content/000844011.pdf>

【結論】10代・20代男性はどの年代も、
ワクチン未接種に比べ、ワクチン接種後の方が、心筋炎・心膜炎の頻度が高い。

ワクチン接種後

心筋炎が疑われた報告頻度
(100万人接種当たり)

年齢 (歳)	ファイザー社		武田/モデルナ社	
	男性	女性	男性	女性
12~14	26.1	3.0	80.0	0.0
15~19	25.5	4.8	98.7	2.5
20~24	16.0	1.2	55.0	2.2
25~29	11.6	1.7	38.9	2.8

心膜炎が疑われた報告頻度
(100万人接種当たり)

年齢 (歳)	ファイザー社		武田/モデルナ社	
	男性	女性	男性	女性
12~14	5.6	1.0	32.0	0.0
15~19	10.1	1.1	14.1	7.4
20~24	5.8	0.6	9.3	2.2
25~29	5.8	0.0	6.3	1.4

ワクチン未接種

10代・20代男性では、ワクチンを接種せず、
新型コロナウイルス感染症にかかって
心筋炎・心膜炎になるリスクは

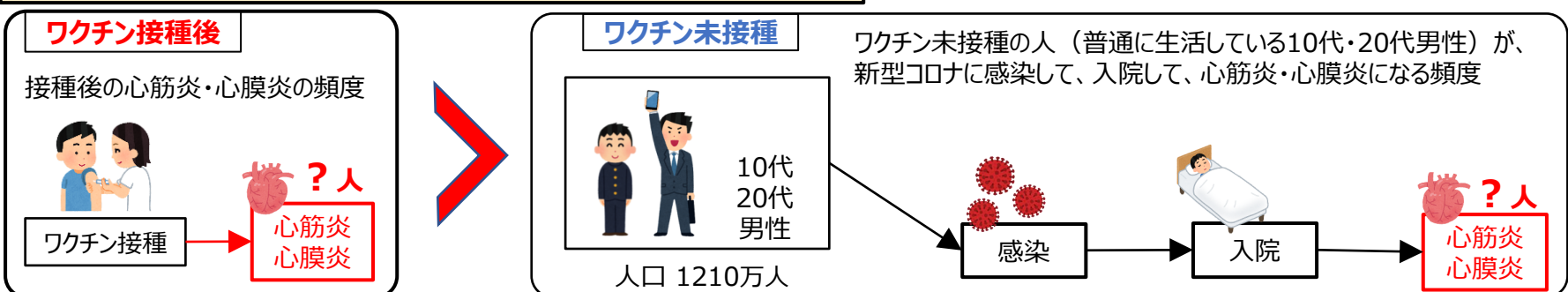
100万人あたり **2.3人**※

※10代・20代男性の入院率を
10%と仮定した場合

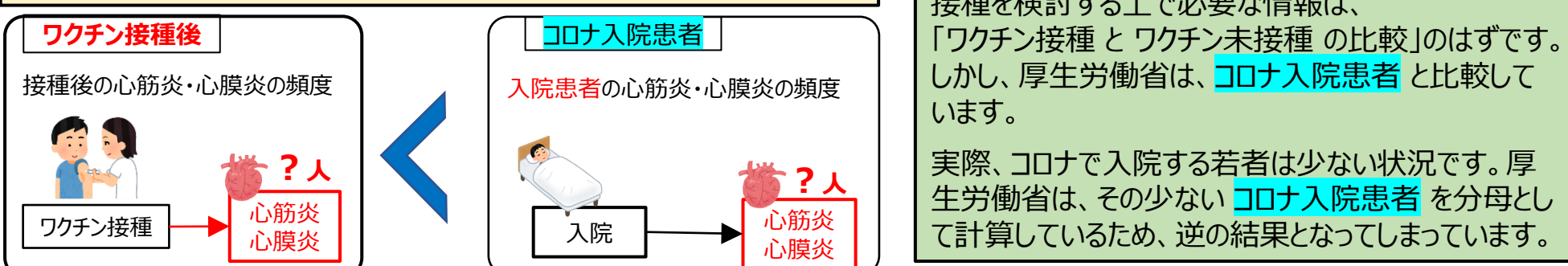
「厚生労働省 新型コロナワクチンQ&A ワクチンを接種すると心筋炎や心膜炎になる人がいるというのは本当ですか。」
<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0079.html> 2021年12月24日報告分

なぜ、厚生労働省と逆の結果になるのでしょうか？

【正しい比較方法】 ワクチン接種 と ワクチン未接種 の比較



【厚生労働省の比較方法】 ワクチン接種 と コロナ入院患者 の比較



【厚生労働省の調査結果】

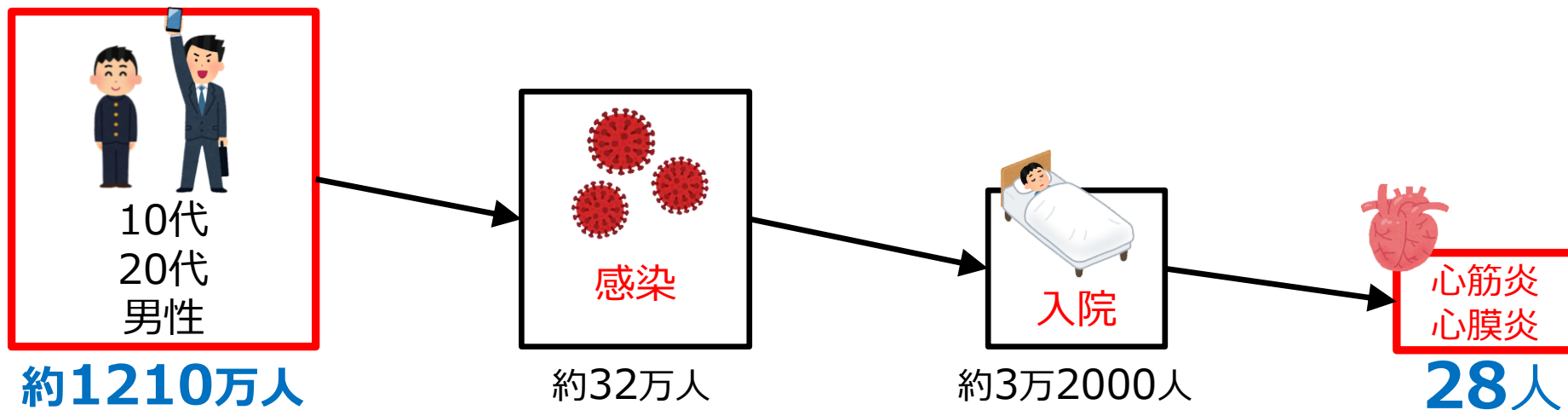
- ①2021年9月28日までの**コロナ入院患者**を調べた。
- ②10歳～29歳の男性で、集計可能だったのは、3,358人だった。
- ③この内、心筋炎・心膜炎を発症したのは、**3人**だった。
- ④これを100万人あたりに換算すると、893人となった。

まとめ 1

10代・20代男性の
**コロナ入院患者100万人あたり、
 心筋炎・心膜炎の頻度は893人**

2021年10月22日 第71回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会
 資料1-6-1 副反応疑い報告の状況について p.34

では、このコロナ禍で、いったい何人の若者が、コロナで心筋炎になっていたのでしょうか？
 上記の **まとめ 1** の換算式を使って、計算してみます。



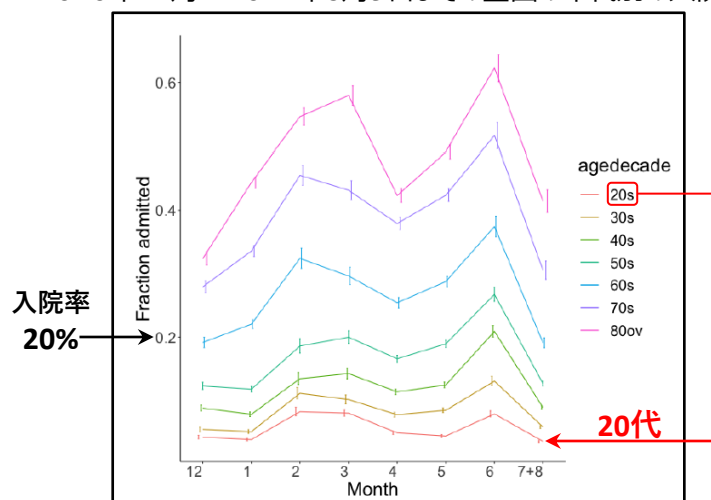
【解説】
 日本の10代・20代男性（人口 約1210万人）の内、
 2021年9月28日までの累計の感染者数は、約32万人※1です。

この内、入院した患者数は、（多めに見積もって）**入院率を10%** ※2
 と**仮定**すると、約3万2000人になります。

この入院数を **まとめ 1** の換算式に当てはめると、
28人が心筋炎・心膜炎を発症していたことになります。

※1 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の国内発生動向(速報値) 2021年9月28日」より算出

2020年12月～2021年8月9日までの全国の年代別の入院率



※2 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード」
 2021年8月11日 資料3-3西浦先生提出資料 p.124

まとめ 2

コロナ禍が始まってから2021年9月28日までに、日本全国の10代・20代男性の内、新型コロナに感染して、入院して、心筋炎・心膜炎になった人は、**28人**いたと考えられます。

これを、**ワクチン接種後**と比較するために、
 100万人あたりに換算します。

$$\frac{28人}{1210万人} \times 100万人 = 2.3人$$

100万人あたりの心筋炎・心膜炎

まとめ 3

ワクチン未接種の10代・20代男性が、（2021年9月28日までの約1年8ヶ月の間に）、新型コロナに感染し、入院した人が10%と仮定すると、心筋炎・心膜炎になる頻度は、100万人あたり、**2.3人**

更に、ワクチンの接種期間に合わせて、1年間あたりに換算すると、頻度は100万人あたり **1.4人**となります。